

4 設問別調査結果 [数学]

中学校 [数学]

京都市を除く京都府一生徒（公立）

集計結果

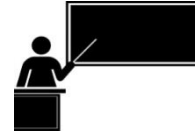
	生徒数	学校数	平均正答率
京都府（公立）	9,197	98	60.8
全国（公立）	938,887	9,505	59.8

分類・区別集計結果

分類	区分	平均正答率(%)	
		京都府	全国
学習指導要領の領域	数と式	64.8	63.8
	図形	73.2	72.4
	関数	42.4	40.8
	資料の活用	57.1	56.3
評価の観点	数学への関心・意欲・態度	—	—
	数学的な見方や考え方	51.7	51.0
	数学的な技能	67.9	63.9
	数量や図形などについての知識・理解	71.1	71.3
問題形式	選択式	60.8	60.3
	短答式	68.2	66.6
	記述式	47.9	47.1

◇ すべての領域において全国平均を上回っている。無解答率についても、すべての問題で全国平均以下である。

◆ 資料の活用領域において、目的に応じて適切に代表値を選択し説明することに課題があり、設問番号8については、小問3つのうち2つの設問で全国平均を下回った。



設問別集計結果

設問番号	設問の概要	領域	正答率		無解答率	
			府(※)	全国	府	全国
1	a と b が正の整数のとき、四則計算の結果が正の整数になるとは限らないものを選び	数と式	61.6	62.2	0.1	0.2
2	連立二元一次方程式 $\begin{cases} y = -2x + 1 \\ y = x - 5 \end{cases}$ を解く	数と式	72.4	70.1	4.2	5.1
3	△ABCを、矢印の方向に△DEFまで平行移動したとき、移動の距離を求める	図形	83.1	83.6	0.7	0.7
4	反比例の表から式を求める	関数	53.2	48.9	9.5	10.4
5	2枚の10円硬貨を同時に投げるとき、2枚とも表の出る確率を求める	資料の活用	78.1	72.8	2.4	3.3
6(1)	冷蔵庫Aの使用年数と総費用の関係を表すグラフについて、点Pのy座標と点Qのy座標の差が表すものを選び	関数	41.0	38.8	0.3	0.3
6(2)	冷蔵庫Bと冷蔵庫Cについて、式やグラフを用いて、2つの総費用が等しくなる使用年数を求める方法を説明する	関数	33.1	34.7	11.1	11.6
7(1)	証明で用いられている三角形の合同条件を書く	図形	76.2	75.8	4.9	5.2
7(2)	ある予想に対して与えられた図が反例となっていることの説明として正しいものを選び	図形	77.8	77.2	0.3	0.5
7(3)	四角形ABCDがどのような四角形であれば、AF=CEになるかを説明する	図形	56.0	53.3	15.2	17.6
8(1)	読んだ本の冊数と人数の関係をまとめた表から、読んだ本の冊数の最頻値を求める	資料の活用	56.7	57.9	9.7	10.6
8(2)	「1日に26分ぐらい読書をしている生徒が多い」という考えが適切ではない理由を、ヒストグラムの特徴を基に説明する	資料の活用	41.1	40.8	19.0	21.3
8(3)	図書だよりの下書きに書かれているわかったことの根拠となる値として適切なものを選び	資料の活用	52.6	53.6	0.9	1.0
9(1)	説明をよみ、 $6n+9$ を $3(2n+3)$ に変形する理由を完成する	数と式	57.6	57.4	8.9	9.5
9(2)	連続する5つの奇数の和が中央の奇数の5倍になることの説明を完成する	数と式	61.5	59.7	15.5	17.8
9(3)	連続する4つの奇数の和が $4(2n+4)$ で表されたとき、 $2n+4$ はどんな数であるかを選び	数と式	70.9	69.6	1.6	1.9

※府(京都市を除く)の正答率が全国の正答率より低い問題についてはセルの色を■で、表示しています。